

麦作技術情報 No. 3

令和5年3月24日
鳥取県産米改良協会

令和5年産(令和4年播種)11月上旬播種麦の現時点の出穂期予測日は4月3日で平年であるが、今後の高温で早まる可能性があるため、適期を逃さないよう病虫害防除等の管理を確実にすることが重要である。

■病虫害防除

- ・ほ場ごとに出穂期に応じて適期防除を行う。
- ・赤かび病は、収量や品質が低下するばかりでなく、人や家畜に有毒なかび毒を発生するため、予防防除を徹底し、発生させないよう努める。
- ・網斑病の病勢が進展する時期であるため、発生を見たら、適期防除に努める。
- ・コムギ黄斑病は早期発見に努め、状況に応じた対応を行う。特に、令和4年産小麦において本病が多発生したほ場では、発生状況に注意する。

■排水対策

- ・湿害は出穂後の登熟に悪影響を及ぼす。特に登熟に大きな役割を果たす麦の細根の発達を阻害し、登熟不良の原因となる。
- ・排水路の点検等を定期的に行い(明渠と排水路をつなぎ、速やかに排水されるようにする)土壌が乾きやすく湿害を受けない環境を作ることが重要である。

【現在までの気象経過】

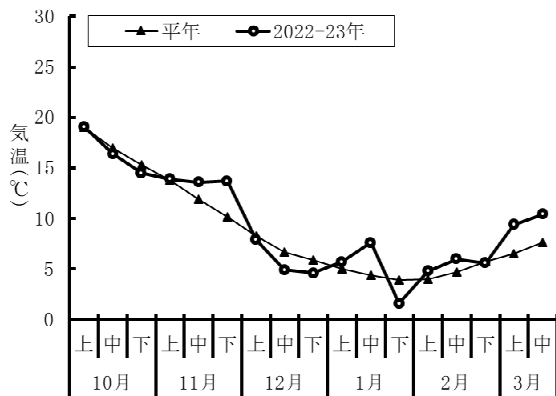


図1 2022-23年日平均気温(倉吉市)

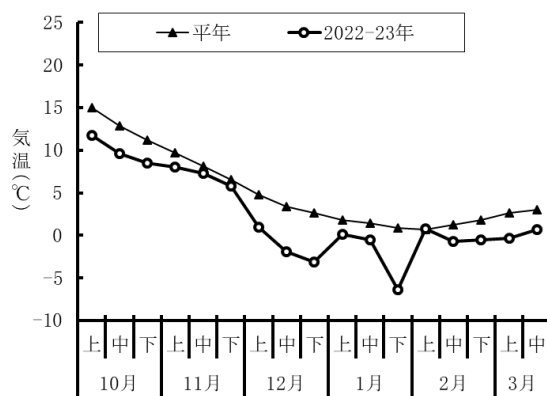


図2 2022-23年日最低気温(倉吉市)

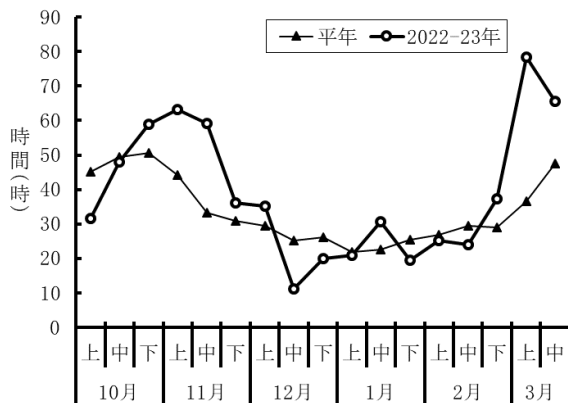


図3 2022-23年旬別日照時間(倉吉市)

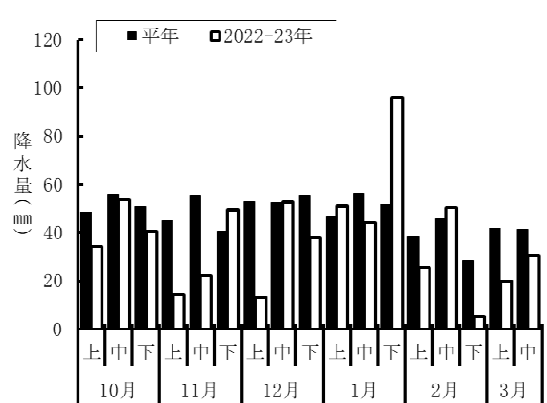


図4 2022-23年旬別降水量(倉吉市)

平均気温は、11月は平年より高く、12月は低く、1月以後は1月下旬を除き、平年並から高く推移。1月下旬にまとまった降雪があった。

3月に入ると高温傾向となり、3月上中旬の平均気温は平年に比べて約3℃高くなっている。

I 気象予報

中国地方 1か月予報 (3月25日から4月24日までの天候見通し)

令和5年3月23日
広島地方气象台発表

＜特に注意を要する事項＞
なし。

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

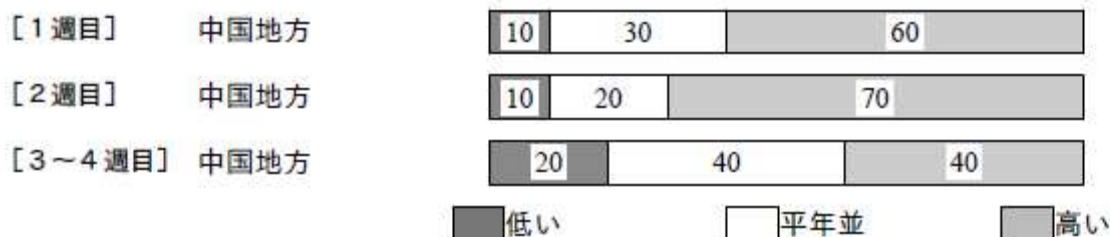
向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



＜気温経過の各階級の確率(%)＞



＜予報の対象期間＞

1か月 : 3月25日(土)～4月24日(月)
1週目 : 3月25日(土)～3月31日(金)
2週目 : 4月1日(土)～4月7日(金)
3～4週目 : 4月8日(土)～4月21日(金)

II 「しゅんれい」(二条大麦)の生育概況

【現地ほ場】

- ・全般的に生育は順調で概ね平年並の生育である。特記すべき病害虫の発生は見られていない。
- ・倉吉市「しゅんれい」の3月24日現在の出穂期予測結果は、11月9日～12日播種ほ場で4月3日の予測となっており、平年並になっている。

【農業試験場生育観測ほ場】

- ・農業試験場11月8日播種「しゅんれい」は、3月23日時点で出穂始めの生育となっており、来週には出穂期を迎えると推測される。茎立ち期は2月中下旬で、平年並の生育進展であったが、2月下旬から3月7月下旬にかけて高温で推移し、生育の進展が早まった。平年に比べて草丈はやや小さいが、茎数が多くなっている。

表 ビール麦「しゅんれい」の生育状況(播種後約4か月:3月上旬)

項目	単位	H30年産	R1年産	R2年産	R3年産	R4年産	R5年産	過去 平年比(差)
茎数	(本/m ²)	816	618	986	803	724	879	111
草丈	(cm)	27.4	39.5	45.8	27.2	17.8	26.8	85
葉色	SPAD	42.5	41.5	45.5	46.3	49.9	44.8	99
葉齡	(葉)	8.4	9.7	10.7	9.8	8.0	10.0	1.0

表 ビール麦「しゅんれい」における過去の出穂期(農業試験場内11月上旬播種)

産年	出穂期 月日
H30年産	4月8日
R1年産	3月30日
R2年産	3月21日
R3年産	4月1日
R4年産	4月14日
過去5年平均	4月2日

III 技術対策

1 排水対策

- ・登熟期の湿害は収量や品質に悪影響を及ぼす。
- ・大麦は、充実度が悪い等の理由で等級の低下となる場合が多い。充実度が低下する要因の一つとして登熟期の湿害の影響が大きいことから、冬季に明渠等が埋まって排水を阻んでないか、排水状況を点検し、手直しを行い速やかに排水が出来る状況にする。

2 病害虫防除

(1)網斑病

- ・葉色の濃い過繁茂ほ場では、特に注意が必要である。
- ・発生ほ場では、病気がまん延する前にチルト乳剤 25(1,000 倍、収穫 21 日前まで、1回)等を散布する(展着剤を加用のこと)。

(2)うどんこ病

- ・高温傾向で多発する病害で、現在のところ発生した情報は伝えられていないが、動向に注意し発生を確認した場合は防除を行う。

(3) 赤かび病

- ・赤かび粒に対する検査基準が厳しくなっており、防除を徹底する。
- ・本病は、出穂期以降の高温(20～27℃)、降雨により発生が助長され、発生すると出荷できなくなるので、すべてのムギで防除の徹底が必要である。また、発病後の防除は困難であるので、下表のとおり適期防除を徹底する。

赤かび病防除対策

	麦種	防除時期	農薬名
1回目	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル または ワークアップ粉剤DL
	六条大麦	開花を始めた時期～開花期	
	小麦	〃	
2回目	二条大麦	1回目散布の7～10日後 (多発生が予想される場合)	トップジンM水和剤 または トップジンM粉剤DL
	六条大麦	1回目散布の7～10日後	
	小麦		

(注)

- ・多発生条件下では、シルバキュアフロアブル、トップジン M 水和剤、トップジン M ゴル、ワークアップフロアブルおよびミラビスフロアブルの防除効果が高い。
- ・水和剤の散布に当たっては、展着剤を加用する。
- ・大麦ではチオファネートメチル剤(トップジンM水和剤、同ゴル、同粉剤 DL 等)の使用回数は出穂期以降1回以内となっているので注意する。

使用基準(赤かび病)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数
シルバキュアフロアブル	2,000倍	大麦: 収穫14日前まで	2回以内
		小麦: 収穫7日前まで	2回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a		
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	大麦: 収穫30日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
		小麦: 収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンMゴル	1,500倍	収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
	1,000～1,500倍		小麦は出穂期以降2回以内
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
			小麦は出穂期以降2回以内
ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	大麦: 収穫14日前まで	2回以内
		小麦: 収穫7日前まで	

(4) コムギ黄斑病 【参考】(R4 年度病害虫発生指導情報 R5 年 3 月 1 日鳥取県病害虫防除所)

- ・3月24日現在、県内の一部の地域でコムギ黄斑病の発生が確認されている。
 - ・赤かび病の1回目の防除時期(開花始～開花期)までに病斑が確認される場合は、上位進展前にチルト乳剤25等を散布する。
 - ・ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
- ※特に令和3年播きコムギにおいて本病が多発したほ場では、発生状況に注意する。

【参考】

令和4年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：コムギ黄斑病（No. 2）

令和5年3月1日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

2月27日現在、県内の一部の地域でコムギ黄斑病の発生が確認されている。ほ場の見回りなどを行って早期発見に努め、状況に応じた対応を行う必要がある。特に令和3年播きコムギにおいて本病が多発生したほ場では、発生状況に注意する。

2 防除対策

- ・赤かび病の1回目の防除時期（開花始～開花期）までに病斑が確認される場合は、上位進展前にチルト乳剤2.5等を散布する。
 - ・ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
- ※特に令和3年播きコムギにおいて本病が多発生したほ場では、発生状況に注意する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 本病の一次伝染源は被害残渣であり、下位葉に発生したのちに上位進展する。
- (2) 一般的に前作が畑作物のほ場やコムギ連作ほ場は、前作が水稲のほ場と比較して、発生が多い。
- (3) 防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。



【参考】発生初期の病斑

○農作業事故防止を徹底しましょう！

3月1日～5月31日まで春の農作業安全運動期間です。

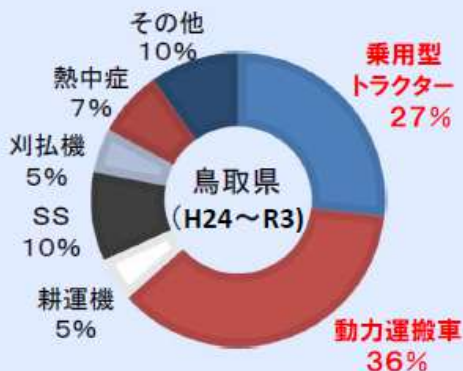


(一社)日本農村医学会編「こうして起こった農作業事故」(No.Ⅰ)より



(一社)日本農村医学会編「こうして起こった農作業事故」(No.Ⅲ)より

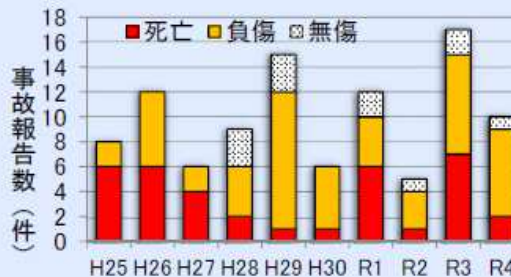
★ 農作業中の重大事故多発



県内の機種別死亡事故発生割合
※H24～R3年度に県に報告のあったもの

- ◎ 動力運搬車でのひかれ事故が多い
- ◎ 乗用トラクターでの横転事故が多い
- ◎ 死亡事故は70歳以上が大半

★ 大切なものを失う前に安全な操作・作業方法を再確認しましょう。



県内の農作業事故報告数の推移
※県に報告のあったもの。(R4年度は11月末現在)

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

事務局

鳥取県農林水産部経営支援課
JA鳥取県中央会農業者くらし対策部

電話0857-26-7327
電話0857-21-2607

令和5年1月発行

自分自身が注意するのはもちろん、家庭や地域などでも声をかけあって、みんなで農作業安全に取り組みましょう。

トラクター

安全のポイント！

- ① **安全キャブ・フレームとシートベルト着用の徹底**
(安全キャブ・フレームとシートベルト着用で、万が一の事故時の負傷を軽減)
- ② **危険箇所のチェック**
(移動道路やほ場の危険箇所を事前確認し、改良や目印の設置など)
- ③ **ほ場進入路の幅・勾配の改良**
(トラクター事故で最も多い転落転倒は、ほ場出入り時に発生)
- ④ **ほ場作業が終わったらブレーキ連結**
(ブレーキ連結は、必ずほ場を出る前に実施)
- ⑤ **低速車マークや反射板(シール)を装備**
(自動車から見にくいため、道路上で追突される事故が発生)
- ⑥ **公道走行は、機械の大きさに応じた免許が必要**
(幅1.7m、長さ4.7m、高さ2.0m、最高速度15km/時を超える機械での公道走行には大型特殊免許が必要)



動力運搬車

安全のポイント！

- ① **発進前に走行レバーの進行方向を必ず確認**
(逆方向に動いて、ひかれ、挟まれによる事故が多い)
- ② **後退時には後方や足下の状況を確認**
(物と機械の間に挟まれる事故を防ぐため、後方の障害物に注意)
- ③ **エンジン始動時の操作レバーは中立**
(ひかれ、挟まれによる死亡事故が多い)
- ④ **走行時のハンドルは必ず正規の位置**
(ハンドルの向きが変わる機種では、走行前にハンドルの位置を必ず確認)
- ⑤ **道路上の走行はなるべく避ける**
(公道を走れる機種と、走れない機種があることに注意)



農機具盗難にも注意！

農機具は目につきやすい場所に置かず、使用後は鍵のかかる小屋や倉庫に保管しましょう。

協議会からのお知らせ【農作業安全研修の希望について】

農作業事故防止のため、協議会では集落営農組織や法人等を対象にした対話型研修の実施を推進し、生産者の安全作業の取り組みを一層進めることとしました。

研修を希望、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。

<対話型研修とは>

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、仲間と話し合いながら情報共有するとともに、組織で取り組む安全行動を定めて、農作業安全に対する取り組みのレベルアップを図るきっかけとしてもらうものです。